



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2520号）

令和7年5月23日

兵庫県立農林水産技術総合センター

但馬水産技術センター 発行

1. 日本海におけるスルメイカの調査結果等をお知らせします。

国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所と日本海沿岸各道府県水産関係機関が検討し、水産資源研究所がとりまとめた2025年4月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況をお知らせします。

（1）2024年秋のスルメイカ幼生の分布状況

調査海域（山陰～東シナ海）におけるスルメイカ幼生の平均密度は0.07尾/m²と、前年（0.44尾/m²）および近年平均（1.60尾/m²）を下回った。

（2）最新の漁況（2025年1月～3月のスルメイカ漁獲量）

西部日本海（福井県～長崎県）では前年の40%、近年平均の5%であり、前年および近年平均を下回った。

※「近年平均」は最近5年間（2020年～2024年）の平均。

詳細は、別添の報告書資料をご参照下さい。

また、7月末には「2025年度日本海スルメイカ長期漁況予報」の発行を予定しております。

報告書の詳細は、国立研究開発法人水産研究・教育機構のウェブサイト（スルメイカの調査結果と漁況：https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/forecast/surume.html）にも掲載されています。

2. 令和7（2025）年度沿岸いか釣り漁場探索調査の結果について

令和7年度沿岸いか釣り漁場探索調査（スルメイカ）の結果（4月上旬～5月中旬）をとりまとめましたのでお知らせいたします。

- ・今年度は4月上旬にほとんど漁獲がありませんでした。
- ・前年度と比較すると、漁獲の多い日と少ない日の差が大きく、4月30日には釣機1台の1時間当たりの漁獲尾数（CPUE）が30尾を超える操業もあれば、5月7日と8日にはCPUEが1尾を下回る操業も見受けられました。

詳細は、別紙参考をご参照下さい。

センターだより（カラー版）をホームページでも掲載しています。

お問い合わせ先：

但馬水産技術センター（中村）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

ホームページ：<https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/>

2025年5月15日

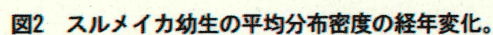
取りまとめ機関：国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2025年4月までの日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況

【本報告書の概要】

- (1) 2024年10月に実施したスルメイカ稚仔調査では、スルメイカ幼生の平均分布密度は2023年および過去5年（2019年～2023年）平均を下回った。
- (2) 2025年1月～3月の小型いか釣り漁業等によるスルメイカ（生鮮）の漁獲量は、日本海沿岸域全体で、前年並で過去5年（2020年～2024年）平均を下回った。

*1) スルメイカ稚仔調査：口径45cmのプランクトンネット（網目合0.33mm）を用いた採集調査。各調査点で深度150mから海面までの鉛直曳によって主に外套背長1mm～3mmのスルメイカ幼生を採集する。



2 日本海沿岸域におけるスルメイカ漁況の経過

日本海ではスルメイカは周年漁獲され、主な漁期は5月～12月である。近年では、年間漁獲量に占める1月～3月の漁獲量の割合が増加している。主漁期では前年の秋（主に10月～12月）に生まれたスルメイカ（秋季発生系群）が漁獲の中心となるが、主漁期終盤では前年の冬（主に1月～3月）に生まれたスルメイカ（冬季発生系群）も漁獲される。また、1月～3月上旬にかけては冬季発生系群が漁獲の主体となり、3月中旬～4月は前年の春～夏に生まれたスルメイカが漁獲される。このように、時期によって漁獲される個体の発生時期が異なる。

前年の主漁期前半（2024年5月～7月）では、小型いか釣り漁業を主体とした生鮮スルメイカの漁獲量は日本海沿岸域全体で過去5年（2019年～2023年）平均の23%であった（図3、4）。海域別に見ても、道北・道央、道南・津軽がそれぞれ過去5年（2019年～2023年）平均の4%と22%、本州北部日本海と西部日本海はそれぞれ過去5年平均の21%と36%であった。主漁期後半（8月～12月）は、道北・道央、道南・津軽および本州北部日本海がそれぞれ過去5年（2019年～2023年）平均の19%、41%および44%であったが、西部日本海では過去5年平均の124%であった。

最新の漁況として、日本海沿岸全域における2025年1月～3月の漁獲量は、前年の80%、過去5年（2020年～2024年）平均の37%であり、前年並で過去5年平均を下回った。海域別に見ると、本州北部日本海は前年の84%、過去5年（2020年～2024年）平均の48%であり、前年並で過去5年平均を下回った。また、西部日本海では前年の40%、過去5年（2020年～2024年）平均の5%であり、前年および過去5年平均を下回った。

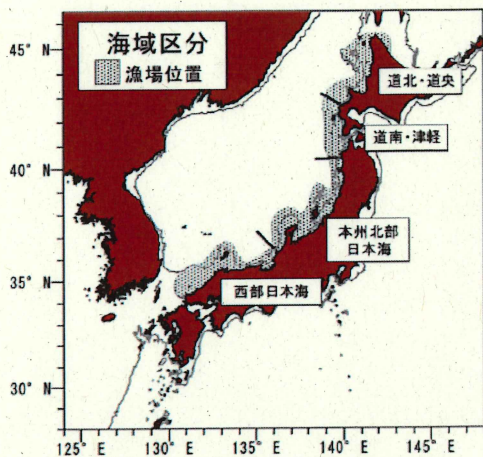


図3 日本海沿岸域における漁場位置と本資料における漁獲量の海域区分
道北・道央は宗谷～後志、道南・津軽は渡島、檜山、青森県、本州北部日本海は秋田県～石川県、西部日本海は福井県～長崎県をそれぞれ示す。

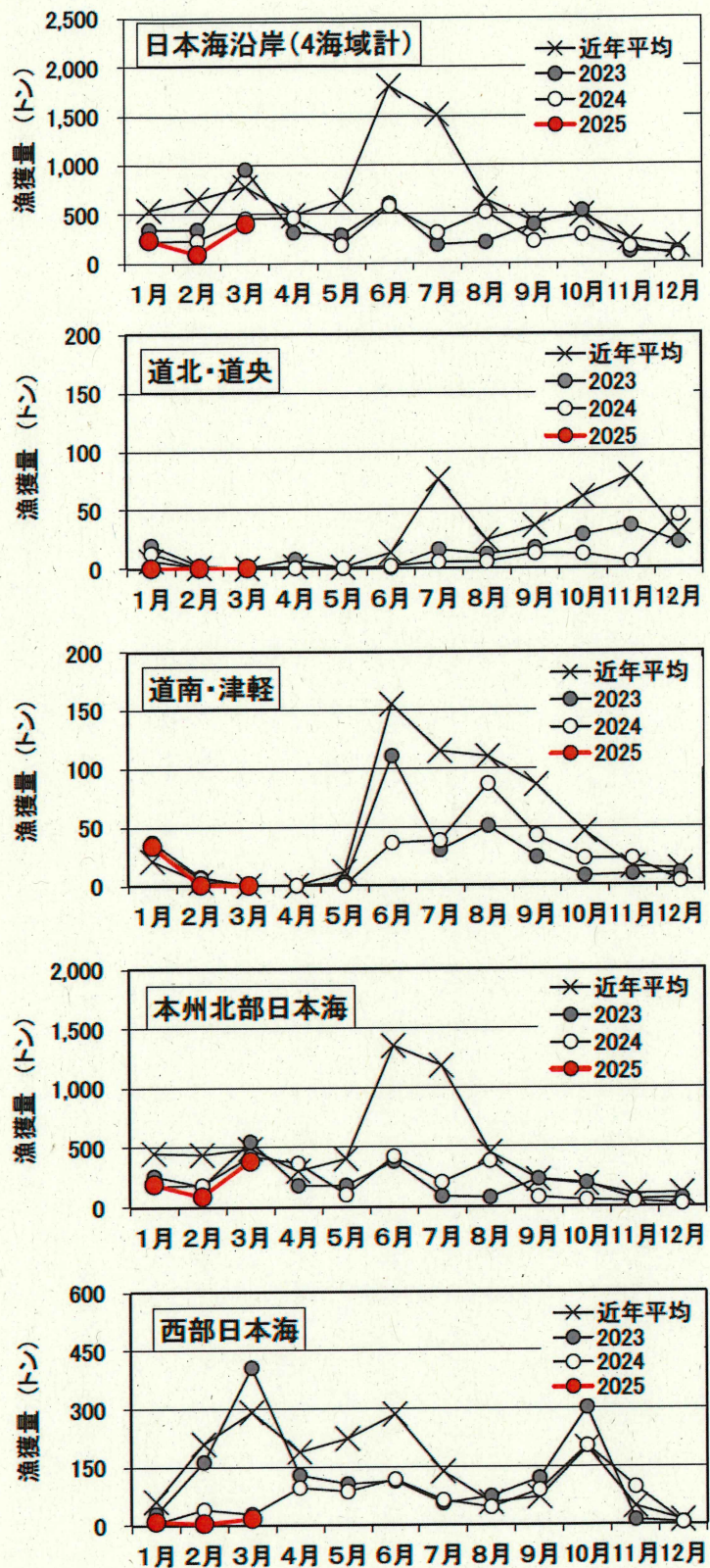


図4 日本海沿岸(4海域計)および海域ごとの漁獲量(過去5年(2020年～2024年)平均、2023年、2024年および2025年)の経過。ただし2025年の一部は速報値。

参考情報 2025 年度第 1 回日本海海況予報

2025年度第1回日本海海況予報^{*2)}では、4月中旬～6月の対馬暖流域の表面水温および50m深水温はともに「平年並」（日本海海況予報における平年値は1986年～2015年の平均値）と予測された。

*2) https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2025/files/20250409_jpnsea-1st.pdf

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 函館水産試験場 稚内水産試験場 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 秋田県水産振興センター 山形県水産研究所 新潟県水産海洋研究所 富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 石川県水産総合センター 福井県水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター 兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター 鳥取県水産試験場 島根県水産技術センター 山口県水産研究センター 長崎県総合水産試験場 一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
---	---

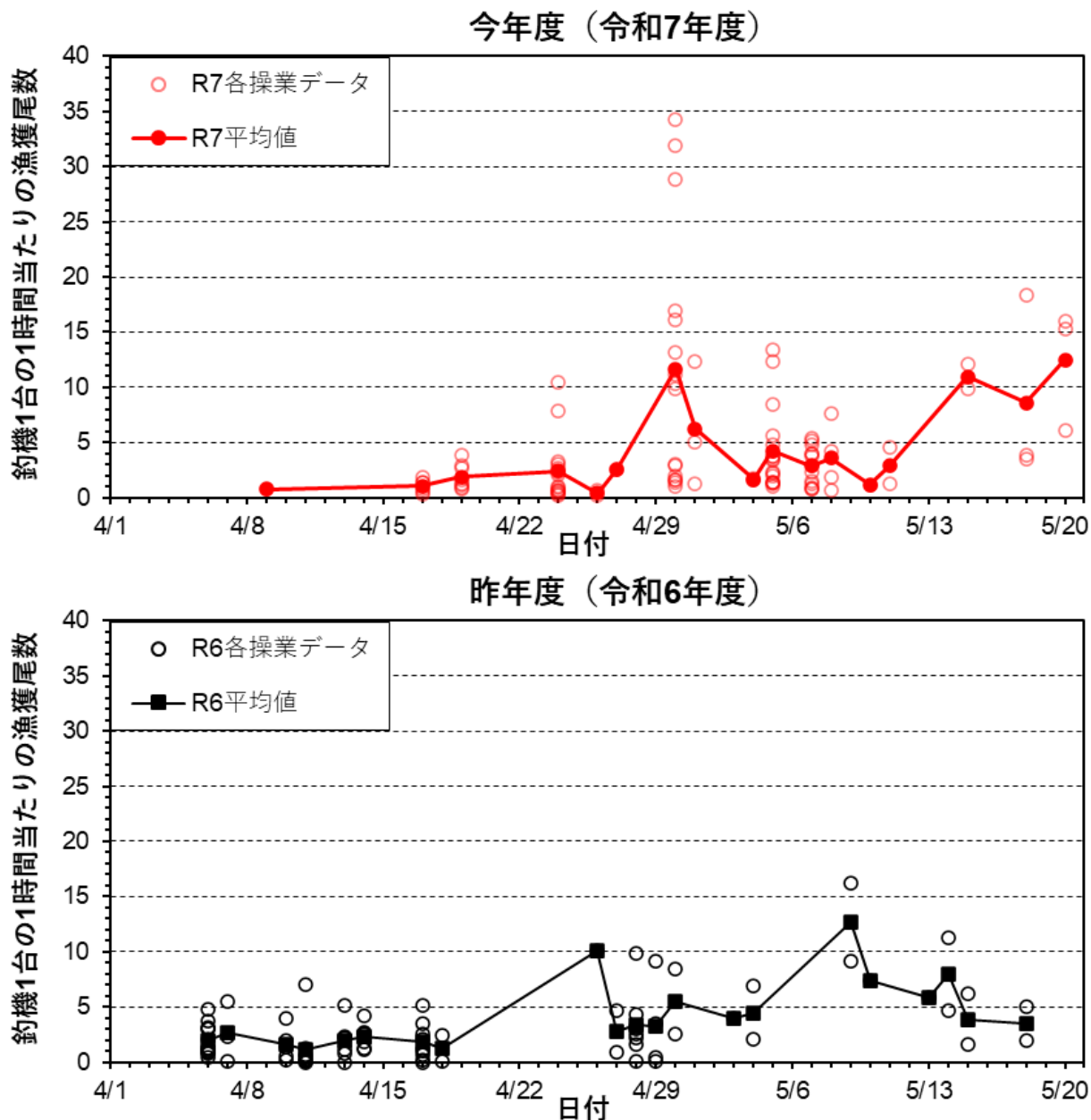


図1 釣機1台の1時間当たりの漁獲尾数の変化（上図：今年度、下図：昨年度）

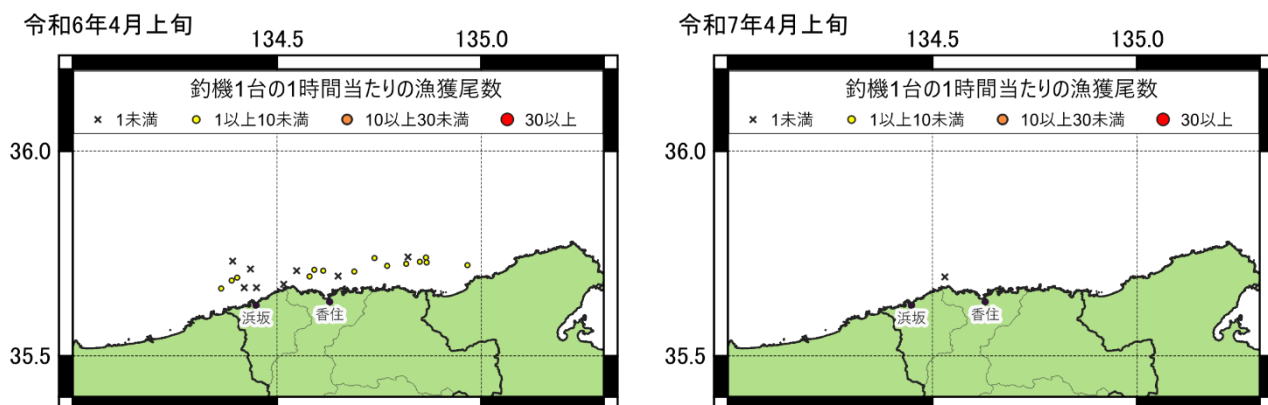


図2-1 旬別の操業位置図（左図：昨年度、右図：今年度）

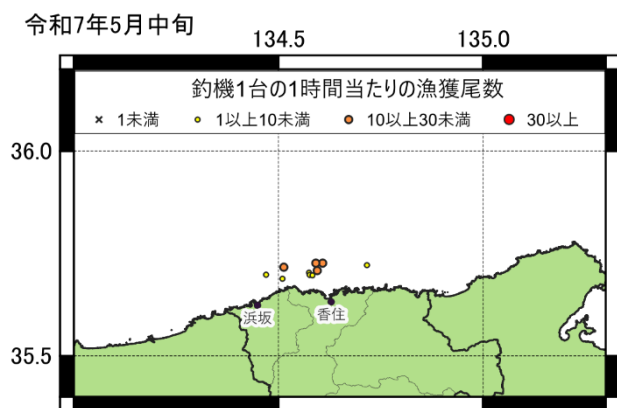
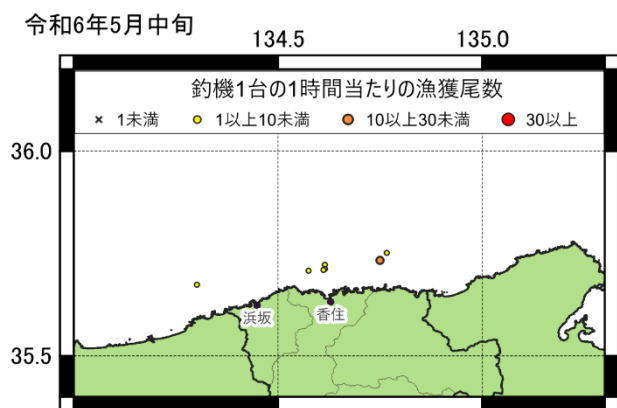
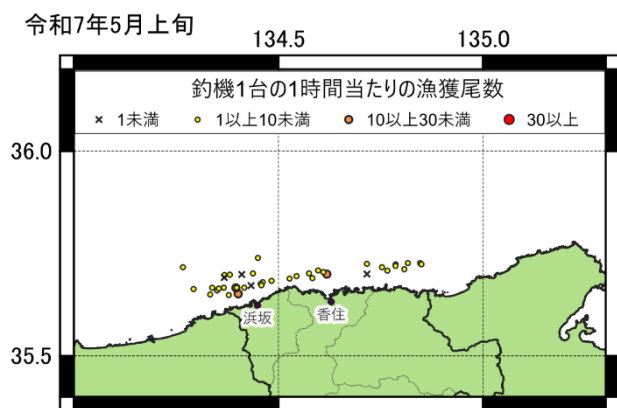
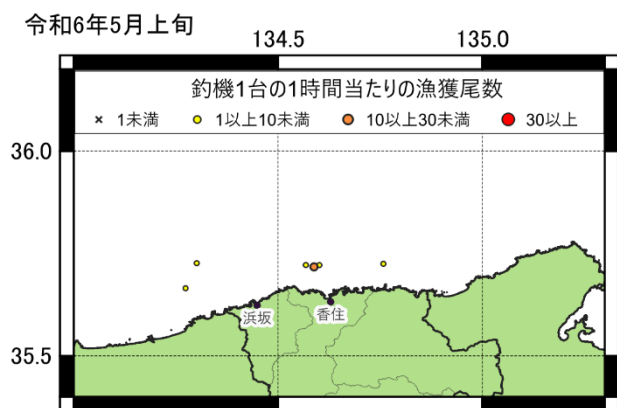
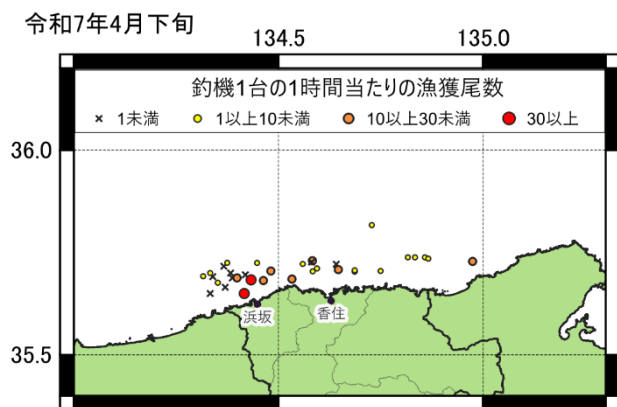
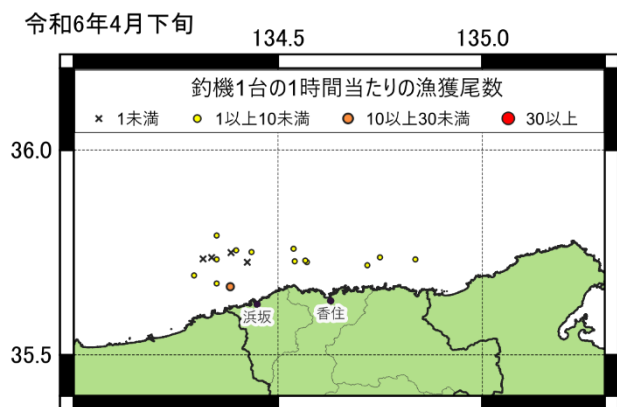
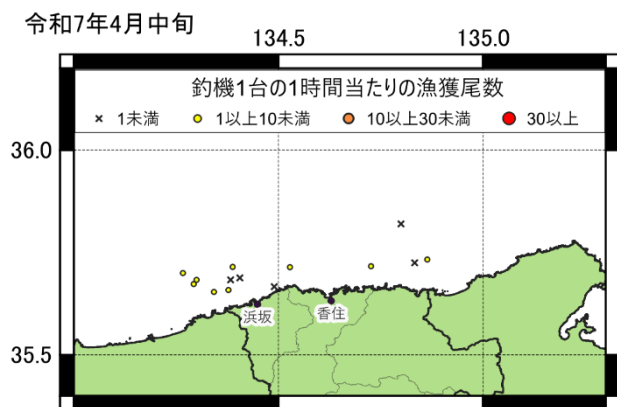
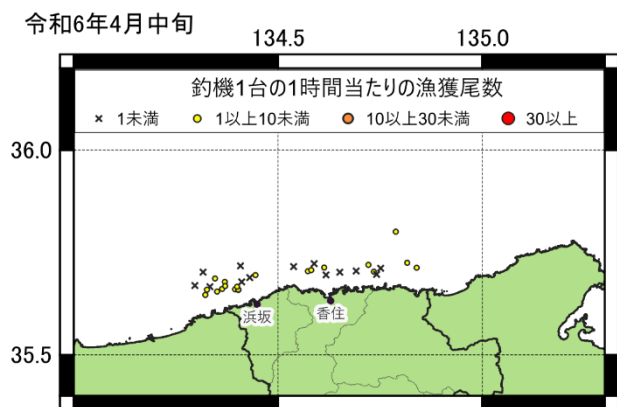


図2-2 旬別の操業位置図（続き）（左図：昨年度、右図：今年度）